



武佐診療所の開所式

問題を自分のこととして考えてほしいとの思いからです。これを機会に、市民の皆さんの環境への関心が高まればいいと思います。

――昨年10月には、待望の市立武佐診療所が開所しましたね。

市長 武佐学区には以前、3軒ほど医療機関があったのですが、約10年前に最後の医療機関が廃業されて、しばらくは無医の状態でした。地元にお医者さんがいないと不安だという声を聞いていたのですが、今回、医療センターを含めてさまざまなご協力を得られ、ようやく診療所を開所することができました。これからの時代は、効果・効率だけではなく、安心感など、市民の皆さんの心の部分をしっかりと行政として寄り添っていくことが必要だと思います。そういう意味で、非常に大きなプロジェクトでした。

新成人からのメッセージ

新春トークにあたり、2025年成人式実行委員会のメンバーから近江八幡について思うことや、市長に聞いてみたいことを込めた動画が届きました。この質問に市長が真剣に答えます。

●近江八幡のいいところ

村井さん きれいな桜並木が広がる白鳥川などの環境や、左義長まつりなどの文化活動も盛んで、人が集まる機会が多いところだと思います。

武村さん 近江八幡駅に新快速が停まってくれるところや、最近マンションがたくさん建って、注目が集まっているところがうれしいです。

七里さん 市長は近江八幡が誇るものは何だと思いますか。

市長 自慢したいものばかりですが、あえて2つに絞ると、1つは左義長だと思います。3か月ほどかけて作ったダシを自由闊達にぶつけあって、最後は盛大に燃やして…。こういう祭りは日本の原点みたいなものだと思いますし、日本や世界に自慢できるものだと思いますね。もう1つはやっぱり沖島です。車が1台もないような、昔ながらの原風景が残っている場所というのは、もうほとんど日本から失われているのではないのでしょうか。



あけましておめでとうございます！



七里さん 村井さん 武村さん 西村さん

●近江八幡に欲しいもの

村井さん 安土駅や篠原駅にコンビニがほしいです。高校生の時から、あれば便利だと思っていました。

武村さん もっと移動手段が増えてほしいです。

西村さん 大人も子どもも楽しめるスポーツ施設があればいいと思います。

●こんなまちに住みたい

西村さん やっぱり自然と共存しているまちに住みたいです。

武村さん いつでも「帰りたいな」と思える地元でいてほしいですね。

●20歳の節目を迎えて

七里さん 市長から就職活動のアドバイスや、20歳の時にしておいた方がいいと思うことを教えてください。

市長 これはもうはっきり言います。就職のときのアドバイスは「飾らないこと・自分のままでいくこと」です。5社を受けても、1社に受かったらいいんです。落ちることを気にせず、自分のままで合う会社を探してください。また、20歳の時は、「したいことをしたらいいい」と言いたいですね。ためらわずにしたいことができるのが20歳の特権だと思います。年を重ねると理性が働くようになりますが、20歳の時はいくらでもやり直しがききます。好きなことをやってください。



近江八幡市長
小西 理

聞き手／近江八幡市広報番組「テレはち」
キャスター 片山 むつみ



令和7年 新春トーク

撮影場所／ウォーターハウス記念館
(国登録有形文化財・ヴォーリス建築)

――はじめに、市民の皆さんに新年のごあいさつをお願いします。

市長 市民の皆さん、新年あけましておめでとうございます。昨年は非常に動きの多い年で、物価高、中でも生鮮食品の値上がりなどで、本当に暮らし向きに苦労されたと思います。そのような中で、市民の皆さんの夢が少しでも実現できるように、本年も頑張っ参りたいと思います。

●令和6年の実績

――昨年は、さまざまな子育て支援を実施されましたね。

市長 これまで高校生世代までの医療費無償化や、多子世帯への給食費減免など、経済面でさまざまな施策を行ってききましたが、昨年は「おむつ おとけ みまもり便」を新たに始めさせていただきました。これは、経済面の支援だけでなく、子育て中で孤立しがちな保護者の悩みを、子育て経験のある宅配員に聞いてもらい、見守られているという安心感や、人と人のつながりを感じてもらうことを目的としています。さまざまな悩みを抱えているお父さんお母さんの情報交換の場や多様な相談先を、これからも作っていきたいと思っています。

――環境対策としては、どのようなことに取り組みされましたか。

市長 地球温暖化や水害、線状降水帯の発生など、環境問題が私たちの身近なものになっています。実際に、地方自治体は何ができるのかといったところから、



ポイ捨て禁止指導員による啓発活動



太陽光パネル・蓄電池設置の支援をしています



おむつを手渡す見守りおむつ宅配員(ハチビーメイト)

家庭における太陽光パネル設置の補助金や、省エネ家電買い換えの補助金などを実施しました。またポイ捨て禁止条例を作らせていただきましたが、これは環境

●令和7年の展望

―市庁舎の整備や文化会館の改修が進み、市民広場の整備に向けた検討も始まりますね。

市長 市民広場は、市民がどのように生き活動できるか、それを表現するような市民活動の場になってほしいですね。私は市民活動そのものが市の活力、市の財産だと思っているので、市長就任以来、市民活動のための補助金の創設や拡充を行ってきました。どんどん活動していたにいたっている現在の状況を、とてもありがたいと思っています。文化会館も、新たな文化や若者の文化を発信する基地・拠点になっていけばうれしいです。

もう1つは、災害時の集積所や活動拠点としての役割です。市民広場がその象



市民広場イメージ図

徴としての役割を担っていければいいですね。

―魅力ある地域とするために、市が今後取り組んでいくことはなんでしょう。

市長 やっぱり文化・スポーツが力です。今年は国スポ・障スポもありますし。モノがあふれている現代では、新しい価値の創造には人間の想像力が大切です。それが育つのは文化・スポーツ分野だと思っています。非常に力を入れていきたいということで、新たに職員として文化芸術専門職の採用を予定しており、大変期待しているところです。

また、現在の子どもたちのやりたい職業のナンバーワンはユーチューバーの音



文芸セミナリヨにある巨大な楽譜・壁画アートを活用したワークショップでAR技術を楽しむ子どもたち

―『市民が主役』のとおり、民間が主体となったイベントが今年も開催されますが、市長がおすすめるイベントはありますか。

市長 非常にたくさんあるのですが、その前に伝えたいのは、近江八幡というこのまちが、さまざまな人にとって楽しいまち、遊ぶことができるまち、他市からも人が来て、「楽しいことをやっているな」と思われるまちであってほしいという大前提です。

その上で、1つは4月に開催される「ベリアスバリュース近江八幡2025」ですね。昨年のオーディションでは、県内の高校生が、障がいのある人と一緒にステージパフォーマンスを作り上げていました。滋賀県最大級の規模を誇る野外音楽フェスですので、ぜひ楽しみにしてほしいです。もう1つは、大阪万博に合わせて開催される「BIWAKOビエンナーレ2025」です。近江八幡の町並みと芸術のコラボには、小中学生はもちろん、市民の皆さん、そして市外からも多くの人に来ていただきたいです。この他にももっとイベントを企画していきたいと思っています。



BIWAKOビエンナーレ2022で展示された作品



ベリアスバリュースのオーディション

楽を知っていたり、プログラミングなどができたりと、さまざまな分野での専門的知識や技能が必要だと思っています。子どもたちが未来に向けた活躍ができる環境を、しっかりと作っていききたいですね。

―子どもや若者にも魅力的な地域とするため、どのような支援をお考えですか。

市長 都市の魅力として何が最終的に必要なのかというと、新成人からの動画の中にもあったのですが、やっぱり子どもや若者に「ここがいいな」、「素敵だな」というふうに思ってもらうことだと思います。その中で市として、教育環境をどのように提供していくかはすごく大事なことです。一昨年から小学校高学年の子どもたちに、「アートで広げる子ども未来プロジェクト」でオーケ



本格的なウインドオーケストラを鑑賞する小学生

―最後に、市長ご自身の今年の抱負と市民の皆さんへのメッセージをお願いします。

市長 私自身の今年1年の抱負は、「いつもニコニコ元気でいよう」です。新年は本当に激動の時代、新しい幕開けの時代です。これまで慣れ親しんできたさまざまなものが変わっていくような時代かもしれません。しかし、1つでも市民の皆さんの夢が実現できるよう、本市職員一同、頑張ってまいりますので、どうか今年1年よろしく願っています。

※この特集記事は、ZTVで1月1日祝〜1月4日出に放送する市広報番組「テレビはち」の内容を基に編集しています。

